

令和2年度 歯学部附属歯科衛生専門学校  
学校関係者評価 報告書

## 1 目的

歯学部附属歯科衛生専門学校（以下「本校という」）で実施した自己点検・評価結果及びそれを踏まえた今後の改善方策について、学校外の関係者による評価を行い、自己点検・評価結果の客観性・透明性を高め、本校と密接に関係する者の理解促進や連携協力による学校運営の改善を図ること等を目的として行う。

## 2 基本方針

「専修学校における学校評価ガイドライン」（文部科学省：平成25年3月策定）を参照し、複数名の評価者により学校関係者評価を行う。

- ① 評価者は、平成30年度に実施した自己点検・評価項目の中から、以下の「評価項目」に掲げる事項について評価する。
- ② 平成30年度自己点検・評価項目以外に、重点目標（専門学校内の全教職員が意識して取り組むことができる具体的目標）を1項目以上設定する。学校関係者評価実施前に、当該評価項目について自己点検・評価を行う。

### <評価項目>

基準Ⅰ 教育課程・学習成果
① カリキュラムポリシーに基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
② 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。
③ ディプロマポリシーに明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。
基準Ⅲ 教員・教員組織
① 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。
○専門学校ごとに任意に設定する重点目標（1項目以上）
・募集定員充足の為の活動 ・学業成績不良を理由とした退学者・休学者の減少

- (3) 各評価項目について、本校及び評価者は取組評価を4段階で評価する。  
(A:十分できている, B:おおむねできている, C:一部改善が必要, D:できていない)

## 3 評価方法

- ① 評価は、本校からの提供資料によるほか、授業、学校行事等の見学、校長・教職員及び学生等との面談により行う。

- ② 本校が「学校関係者評価票」(別紙)の各評価項目について、資料等を交え、評価結果及び取組状況等を学外評価者に説明する。
- ③ 学外評価者が、上記を基に、以下のとおり評価を行う。
  - (1) 各評価項目の「取組状況・評価に対する意見等」・「優れている点、継続してほしい点」・「問題点・要望等」・「その他意見等」を記述する。
  - (2) 取組評価については、次の4段階で評価する。  
(A:十分できている, B:おおむねできている, C:一部改善が必要, D:できていない)
- ④ 評価者の互選による代表者は、各評価者の学校関係者評価票を取りまとめ、学校関係者評価報告書にて「評価結果(総評)」を作成する。

#### 4 学校関係者評価協議会構成員

##### ①学外評価者

###### (1) 卒業生

井上 球代(歯学部附属歯科衛生専門学校同窓会会長)

###### (2) 学校の専門分野における関係団体・関係業界

小川 彩花(東京都立心身障害者口腔保健センター勤務(実習先))

###### (3) 地域住民

成田アヤ子(成田歯科医院勤務)

##### ②日本大学歯学部附属歯科衛生専門学校教職員

林 誠 校長

清水康平 教務主任

満足 愛 教務副主任

國井知余 専任教員

鈴石雅子 専任教員

向井友美 教務課主任

#### 5 協議会開催日時

第1回 令和2年11月26日(木)10時00分～11時00分

第2回 令和3年 1月27日(水)10時00分～

#### 6 評価結果(総評)

自己点検・評価結果については、別紙学校関係者評価票のとおりであるが、以下の各基準における改善方策等を挙げる。

「基準Ⅰ 教育課程・学習成果」においては、各教科について意見を云いあえる環境に改善するとともに、学生評価が低い教科に対しては、教員に対して適切な指示が出来るよう取り組んでいく。さらに、学生の理解力や習得状況に応じて、個々にきめ細かい指導を行えるようさらに検討をしていきたい。

「基準Ⅲ 教員・教員組織」については、現在行っている教員の教育研修会は今後も継続し、学部FDへも参加するとともに、その他外部機関で開催している教育に関する研修会等の情報も積極的に取り入れていきたい。

「募集定員充足のための活動についての重点目標」は、十分な感染対策を行った上での学校、病院見学に加え、遠隔会議アプリのZoomを用いた遠隔進学相談会を実施するなどを行ったが、今後も新たな形で情報発信していけるように努めていく。

最後に、「学業成績不良を理由とした退学者・休学者の減少についての重点目標」は、入学前教育プログラム（提携先：進研アド 入学前教育センター、学生の受講義務：任意）の効果を分析し入学後の学習活動が円滑に行われ、学習意欲の向上・維持がされるようにしていく必要がある。

以 上